

ありんこの会

支援者の集い報告



6月15日(土)午後、支援者14名が参加し、2018年度の活動を振り返りつつ、今後の課題について話し合いました。活動報告は月毎に件数を集計していて、年合計は106件になりました。件数の多い順から、毎週の生ごみ捨て41件(150回程)、将棋の相手15件(60回)、一人暮らし男性の家事支援7件(56回)、庭木の剪定と草取り13件、買い物9件、地震と台風後の後始末3件。その他、リサイクルごみや不燃ごみの始末、照明器具取替、衣類整理、ガラス拭き、冷蔵庫整理、換気扇掃除、ガラス拭き、ズボンのゴムと裾直しなど沢山ありました。

支援の対象者はかなり高齢で心身の障害を持ち、一人暮らしの方が多いです。昨年度の特徴としては、地震や台風被害の後始末が目立ち、地域包括支援センターから終活支援の依頼があったことです。

終活を後回しにしてきて多量の不燃ごみ?に囲まれて困っている人、整理しようとしても判断が自分で出来なくて困っている人、庭木の剪定や草取りの負担の重い人、エンシュアなど重いものの買い物ができない人、無理して骨折などしてはと心配になって依頼される人など色々な方がおられます。その姿は、できるだけ他人の世話にならないようにと頑張ってはきたが、一人で頑張ろうとしても心身の衰えが進み、でも最後まで在宅で頑張りたいとの思いが籠っています。

支援する人と支援される人との関係は、強者と弱者とかお金で解決する関係ではなく、最後まで在宅で過ごしたいという会員同士の思いを支え合う気持ちが基盤にあります。その頑張る姿に励まされ、人間は孤独で一人では生きられない、いずれは自分の事としてボランティア精神の大切さを実感できる年でした。

話し合われたこと

- 庭木剪定や草取り、一日がかりの負担が重いものは人手を増やして軽減する
- 市の衛生課に連絡すると、110円/45ℓで回収してくれる（詳しくは高槻市のホームページをご覧ください）
- 経費として請求にバラツキ。交通費や刃物損料を8%~10%載せても良い
- 支援者が近くにいない、あるいは負担が重いなどでお断りすることはやむを得ない
- 生ごみ捨ては朝早いですが、介護ヘルパーの業務内で引き受けるところもある
- ごみ量が多い場合、不燃ごみなど他日処理についての対処
- 判断に困る場合、世話役と相談しながら解決していく